

平成 16 年度エル・ネット「オープンカレッジ」

e ポートフォリオ入門

IT活用で生涯学習を
80倍面白くする方法

第 2 回「協働学習企画入門」全文採録

講師 前川道博（東北芸術工科大学専任講師）

【1】協働学習企画

=====

<生涯学習に寄せる IT 革命の波>

=====

.....

L201 第 2 回講義の狙い

.....

e ポートフォリオ入門第 2 回「協働学習企画入門」です。前回は個人が e ポートフォリオ学習をどのように楽しめばいいんだろうということについて学びました。今回は、今度は、それを学習の輪、地域づくりの輪に広げていくということについて皆さんと考えていきたいと思います。

.....

L202 生涯学習の IT 革命

.....

生涯学習の学び方というものが多様化してきています。特に IT というものが普及して、その学び方の質というものが大きく変わりつつあります。これはある意味 100 年以來の大きな変革だと言われています。その前は黒船来航。皆さんご存知の黒船来航。幕末を大きく変えました。そして日本を変えました。そのときに吉田松陰、松下村塾というのを開いたりしています。寺子屋というところで、主体的に学ぶということを実践した。それが近代日本を作る大きな力になったといわれています。

そして今日は、この現代はインターネットですね。情報革命というものが今起きているわけです。それと共にそれにふさわしい人材育成、学び方。こういうものが求められてきています。

それが何かというと、一つはインターネットを活用していくということなんですね。そして主体的に学んでいくという、その学び方を広めていくということなんです。その有効な学習方法が e ポートフォリオ学習なんですね。そしてこれをもっと地域の中に広げていく。そして学習の輪を作っていく。そして社会を豊かにしていく。こういうことを皆さんと考えていきたいというのが今回の「協働学習をどのように企画していけばいいか」というテーマ設定なんです。

L203 ポスト IT 講習

IT 講習が各地で開かれています。IT、パソコンというものは何かをするための手段ですね。決して目的ではないんです。ですから道具をどう使うかということ学ぶ、ということもあるんですけども、もっと大切なことはそれを何に役立てていくかということですね。パソコンも昔と違ってとても使いやすくなってきました。マルチメディア、インターネット、そしていつでもどこでも持ち運べるパソコンも出てきています。ケータイのようなものもその端末になってきています。そのようにコンピュータ、メディアというものの環境が大きく変わってきました。

そうするとこうものをどういうふうに学習に役立てるか。こういう発想も自ずと変わってきます。これまでは一に習熟、二に習熟。とにかく道具を使うので大変でした。ですから、ワープロでも表計算でも一つ一つ覚えなないといけなかった。ですけれども、これからは生き甲斐、もっと豊かな生き甲斐を創造していく一つの手段として使ってみると、その辺の発想も全く変わっていくのではないかと思います。

L206 学習ニーズの多様化

生涯学習講座がいろいろな生涯学習施設などで開かれたりしています。実はとても学ぶ人たちのニーズが多様化してきています。そして、メディアも多様化してきているので、この辺の状況変化、学習のニーズに応えるというのがとても難しくなってきてきつつあります。昔は何か講座を開けば、100 人も 200 人も集まった。ですけれども、今は非常に多様化したニーズの中で、同じ講座を聞きに来る人が 20 人、30 人と少なくなってきている。そういう状況の変化もあります。そうするとそういったものを企画して提供するというのはなかなか難しくなってきますね。それは今日の生涯学習のニーズとちょっとだんだんとずれてきつつある。そういう状況の変化があるかと思っています。

=====

<協働学習モデル「楽しく協働学習」>

=====

L207 公開講座「楽しく協働学習」

これからはどういうふうに生涯学習を進めていけばいいのかということを考えると、地域学習あるいは地域づくり、コミュニティづくり、そういうふうなものを学習活動、地域の活動にしていくという発想の

転換がとても大切なんです。

併せてその中で情報を共有できる。情報を出し合う。こういうことが支援できていくととてもいいわけです。そのためにも e ポートフォリオというものが、一つ仕掛けとしてあるとですね、それを皆が共有できる。皆で更新できる。そして活動の記録、活動の様子が伝えられるというふうなことになります。

東北芸術工科大学では 2002 年に、ブッシュコーンという道具を使って、協働学習のモデルになる「楽しく協働学習」という講座を開きました。これは 4 回開催しました。いろいろなテーマが考えられますので、あれもこれもという具合にはいかないんですが、4 つほどに整理しました。一つは「環境学習」、それから「自然観察」「地域学習」、旅のレポート「旅れぼ」です。こういう 4 つのテーマで興味あるテーマの講座を選んでいただいて、皆さんに参加していただいてですね、ポートフォリオをどのようにすればできるんだろうか。それを実習を含めた形で 2 日間の講座として開きました。

L208 講義とフィールド学習

1 日目はレクチャーとフィールド学習ですね。まず午前中は「協働学習って何?」「ブッシュコーンって何?」という概論を、まずレクチャーを受けていただくという形で開きました。そして午後はフィールドに出て行って、取材をしてくる。そしてそれをデジカメを持って行って撮ってくる。ビデオを持って行って撮ってくる。そうするとホームページを作る、ポートフォリオを作る素材ができるわけです。そしてデジカメで撮るということは、対象世界に対する自分の興味を切り取るということですから、そこには自分の何がしかの関心事があるということなんです。

それを持ち帰ってもう一回よく観察してみると、いろんなことが見えてくる。あるいはなんでそこで自分が撮ったかということの意味が見えてきます。今度はこれを文章にして表現してみるわけですね。それもまずはあまり時間をかけずに一通りやってみるといことがとても大切なことなんです。

一度やってみるによっていろんなことが見えてくるわけです。そして方法がわかるわけです。1 つできると、今度は 2 つ目もできます。2 つ目できると 3 つ目もできます。ですから 1 回やるのがとても大事なんです。そこでいろんなことに気づいていただけるはずなんです。気づくはずなんです。そして何か面白いことが見えてくるかもしれないんです。そういうふうにして始めるというのがこのワークショップの狙いだったんです。

L209 e ポートフォリオ作り

1 日目。そして 2 日目はポートフォリオ作成と成果発表ということで、コンピュータを使って、ブッシュコーンを使って、ポートフォリオを作り始めるということを体験していただきました。だいたいこれは半日ぐらいでやって、後は思い思いに時間を使っていただくと。そして心行くところまで作っていただいて、最後に成果発表をするということでまとめをしました。これで 2 日間です。

だいたいこれぐらいの内容、組み立てで講座を開くことができます。これはもちろん協働学習の入り口に立つものなんですけれども、ここで一通り体験をしたら今度は、自分の中にある、ホントに学びたいものですね。これをもう一度問い直していただくといいわけですね。そして私は例えばバードウォッチングに興味があるということであれば、そういうポートフォリオを企画してみればいいわけです。そういう同

じテーマで、何人も参加できるようであれば、協働学習という形にして、地域の人が参加できる講座として開いていただくと、そこにたくさんの人たちが参加できるわけですね。

これは、これまでの IT 講習。ワープロを使うとか、表計算を使うとかいうのとは全く違う、目的指向の、目的のために道具を使う IT 講座になっていくわけなんですね。IT を学習の手段として使う講座ということ。これが協働学習の基本的な考え方です。

L213 受講の後は面白さ数倍

(出演) 鍛冶博さん(山形県山形市)

鍛冶さんは公開講座に参加された後で、「最上33観音」のサイトをいきなり作られましたよね。その辺は何か思っていたことがあったんですね。

鍛冶 そうですね。私の場合は、何ですか、自分の足跡を残したいというのが一つ。それから山形県にせっかく聞いたことあるけれども、最上33観音という立派な史跡があるということで、自分の足でとにかく回ってみようと。本とか何とかありますけれどもね。自分で、自転車と足で、あと自動車も若干使いましたけれども、自分の眼で確かめてみようということで作りました。それが一つ。

それからもう一つは、登山をやるんですけども、登山も年齢と共に弱くなりますけれども、高い山は高い山なりのストーリーを作ってですね、動画と静止画と、花と合わせたもので作ってまして、これは今年も来年もまた随時積み重ねていきたいなと。目的としてはそんなことで作っていました。

それを始める前と後と、どういう生き甲斐の違いと聞くのも失礼ですけど、何が変わりましたか。

鍛冶 それは違いますね。目的と。それから行くということ。で何をするかっていったって、ただ普通ですと山へ行けばただ登るだけですけれども、今は山で登って、皆さんに少し情報を発信しようということであれば、カメラ技術、ビデオの技術、それから制作と、やはり一貫した作業が伴いますんで、これは楽しいですね。前後と、前と後と楽しみが増えています。

何倍か楽しい...?

鍛冶 数倍ですね。

これは80倍広げようということなんですね。

鍛冶 そうですね。可能だと思います。

=====

<協働学習企画ケース1>

=====

 E201 エコウォーク in 手賀

(出演) 杉浦正吾 (環境カウンセラー)

(聞き手) 前川道博

杉浦 エコウォークはですね、沼南町の、役場の方がネットワークまちづくり課という課を、新しく立ち上げて。その生涯学習審議委員というのを町から募った訳ですね。この町を、まあ生涯学習というくらいですから子供から、お年召した方まで、目的意識を持ってね。ずっと豊かに暮らせるような町づくりをしようというような発想で、みんなで色々話し合ってきた。

その中からちょっと環境に関しても何かやってみようよと。というものの中からさらに、学校の先生、特にその町の中には手賀地区とって、手賀沼というあの日本一、今はそうでもないですけど、汚かった沼に面した地域があったので。そこで、まずちょっと子供たちと地域の方々と一緒に、何かやってみよう。というのは、最初は町の方から出た話です。ですが、主体は今言ったその、「まちづくり研究会」みたいな会があってですね。そのまちづくり研究会というのはもちろん今言った市民の代表です。と地域の方々と学校と三位一体でプロジェクトを進めてきたというのが最終形ですね。

あれは、最初の、まああの popcorn を当時紹介いただいて。結局その環境問題と言うか環境学習の中で、表に出てですね、情報として写真を撮るなりなんなりという方法がありますけど。一つもその拾った情報を削除しないと、全てを載せきれると言う所がまず一つ面白いなという気がして。かつその、削除しないで持ってきた画像というかデータをですね。情報に対して、その時でもいいし、遅れてからでもいいですし、コメントをつけていくと、というような事が出来る。ですとか、アーカイブをしておいて、後で思い出して語る事も出来るし。アーカイブが割と簡単に自由にできる。その二点で、環境学習には結構向いてるのかなという気がして。

あの試み自体は、教頭先生の全国の会議というのがあるらしくて。そこでは高く評価されたというふうには、手賀中の教頭先生がおっしゃられていて。「よくここまでできたね」と言うような話は、いただいたというのが。これは数年前に話をさせていただきましたので。

もしですけど、今また、同じノウハウでやれば。今度は割とその、子供たちとか、学校の先生たちが自分たちが作る。それこそ、今時代が NPO とか NGO 地域の市民の方々が協力が得やすくなっていますから。その中から優秀な方を募ってもいいでしょうし。そういう意味では、pushcorn を使って、かつ地域の方々の連携をとれば当時よりも...

デジカメもう大体の方が持ってますし。携帯でもいいんですけど。かつ、pushcorn も非常に簡単になっていますし。かつ、市民の学校への参加もここ数年顕著にであるという、この三つから考えると、いいのかもしれないね今同じ事やったら。

前川 当時、非常に先駆的な事をやったんですね。

杉浦 だったと思います、当時ある技術力で、当時の精一杯の中でうまくやったというかですね。

前川 だから、その次の年に pushcorn だったんですね、そこで pushcorn 適用できなかったのが惜しまれますね。

杉浦 そうですね、まあ。もっと違う形態でもできそうですね、つまりその学校でいうと、時代背景から言うと、総合的学習というか、またそれも出始めというか、考えられ始めた所で。今もうわりと総合学習というのは、高校でも必修化されて、あたりまえのように事業に入ってきた訳ですね。そうすると環境学習だけでなく総合学習のノウハウが蓄積されてると思うんで。それを当時やったノウハウにつっこむと、面白いものができそうな気がしますね。

E202 地域文化の資料館作り

(出演) 松田憲州 (西川町教育文化課主任)

(出演) 小川朋子さん (「石碑・石仏」の制作メンバー) = 映像のみ出演

(出演) 前川道博 (東北芸術工科大学専任講師)

松田 そもそもはですね、西川町も道路開発が急速に進みまして、町内の至るところに存在していた石仏もやむを得ず移動せざるを得ないとか、もしくは滅失とか破損とかいうことが起きてきたわけですね。そもそものスタートは平成元年頃に、町の事業に関わっている若い方が、石仏の調査を個人でやっておられた方がいて、その方が調査されて来られたものをベースにして、一昨年から町の緊急雇用対策事業として調査を始めてきたということです。どうしてそういうものを公開しているということになりますと、やはり石碑とか石仏というのは、中々地元の方でも、その由来とかどういった経緯で存在しているのかわからないようになってきている状況にあるのですけれども、やはり昔の信仰の対象でありますから、先人たちが非常に苦労して建てた、そのような思いとか、込めている願いとかいうものを、今の世の中の方にも少しでもわかっていただけて、石仏を理解していただくということで、ひいては西川町の歴史も見えてくる。あとは集落にあっては集落自体の昔の歴史もわかっていくということなので、地域に関心とか興味とか、より一層深まるのではないかと考えてホームページを開設しているところです。

(「西川町の山菜料理」の笹巻のビデオを見ながら) 西川町の月岡という集落で、風明(ふうみょう)会というお母さんたちの食品を作る会があるわけですね。そこで、笹巻を作っている状況です。笹巻を茹でる時にはこうやって持ち上げる、なんていうのは見ないとわからないわけですね。

前川 そうですね。

出羽三山神社ということで、非常に東北でも一番木造建築で大きい規模の社殿があるんです。その春祭りの中で、太々神楽(だいだいかぐら)というものが奉納されるんですけども。その時の状況を公開しています。これも動画なんで...見ていただく...(クリックして動画を再生する)

「山菜学」の方の関連のホームページということで、今年になってからですけども、西川町の郷土食、郷土料理の調査を新たにやってみました。

前川 非常にこういう視点はいいですね。山に生えている山菜の状態っていうのは知らないんですけどもね。よくわかる人は採りに行って採ってきますけど。山菜料理ということになっているだけでも、山菜料理という文化を、どういうふうに、何をどう伝えるかという。またそれは一つの実験になるような感じはしますね。

松田 そうですね。

前川 これがまた一つ、学習すると意味のあるところのような気がしますね。

=====

< e コミュニティで生涯学習 >

=====

L216 e コミュニティを实践

はい。で公開講座は2年前になりました。そして、1年前はちょうど国民文化祭というのがあったので、そのときに情報レポーターというのを組織して、自分たちの地域で開かれる国民文化祭をレポートしていこう。それを市民の力でやっていこう。それをネット上に残していこうということでやったわけですね。

これも一つのなんといいますかね。コミュニティの活動になっていったと思うんですね。非常にその中で実践力を磨き、スキルも上がるし、企画して人とつながってやっていくときに、何をどうしていけばいいんだろうと、いろいろな諸々のことを学ばれたんだと思うんですね。

その辺で難しかった点とか、今振り返ってみるとどんなことがありますか。

鍛冶 難しいというか...、とにかく我々あの時点で活動を始めたというのは、ホントにふって湧いた自分たちの自発的な、発展的にできた事柄ですから、企画、それからどうしようかと、どんな編成にしていこうかということから始まりましてね。そして最終的にどんな決着してどんなサイト作るのかと、そこまでを大体料理をして、そこに皆くっつけていったと。皆さんの情報、皆集めていったと。最後にアップしまして、インターネットで流すという一連の作業を兼ねてたもんですから、企画からとにかく何もかも、最後まで集約したということで一つホントに大きい力になりましたですね。やはり試行錯誤しながら作ったというのが大きい初めての事柄でしたんで、まして十数名の人間が集まりましたからね。その辺もあったような気がします。

E203 国文祭情報レポーター

(出演) 海谷美樹さん(山形県山形市、元国文祭やまがた事務局)

(出演) 高橋敬二さん(山形県山形市)

(出演) 前川道博(東北芸術工科大学専任講師)

海谷 国文祭というのは単発のイベントで、10 日間が終わってしまえば後は何も残らなくなるんですけども、それまでの期間というのがすごく重要だと思ったんですね。その中で人の出会いとかいうのを、国文祭が終わってからもずっと続けていけるような、そういった人の関わりっていうのを作っていきたいと思ってましたので、記録という部分を情報レポーターとして、一つの集団というか、志を持つメンバーの集まりということで、継続して活動できるような形にしていきたいと思いました。

デジカメ持ってらっしゃる方には、写真画像ということでアップしていただいたんですけども、ビデ

オカメラを持ってらっしゃる方には、動画の形でブッシュコーン使ってアップしていただいて、それをインターネット上で公開していただきました。

高橋 私も情報レポーターになって、ビデオカメラを買った。そして何とかそれで撮った…。もともとそういう趣味があって使いこなせるという状態ではなかったわけです。こう仲間に入ってみると、自然と友達ができるわけですね。私の商売上、何というか、おんなじような職人のつきあいだったのが、まあ、若い人で、いろんな変わった人もいるわけだからね。それで面白いと。そしてたまには一杯飲むということで、だんだん深みにはまったという大変だけれども…。

前川 (国民)文化祭情報レポーター。海谷さんが呼びかけて集まられた。ただ、実際にはその前段には、ブッシュコーンワークショップという公開講座で、興味を持った何人もの方がいらっちゃって、その方たちが参加されて、中心メンバーになっていったということが実はあるんですよね。ですから、そういうのをやりたいと思っている方を集めてもらうような一つの仕掛けとして協働学習企画、ワークショップを開くとかですね。そういう場がとても大切な意味を持ってくるのではないかな、と思います。

L217 e コミュニティで学び合い

昨年、山形では国民文化祭情報レポーター、さらにはその人たちが次の新しいテーマとして、「山形あ・ら・か・る・と」という地域のレポーターですね。市民が主体で情報を伝えていくっていうのを始められました。ここではこういうものを「e コミュニティ」と呼んでみたいと思います。

これはいろいろな意味があります。コミュニティというのは非常に広い意味です。既にあるコミュニティもあります。例えば町内会のようなもの。地域の中で既に活動しているというグループもあります。その人たちが IT を使うということを考えて活かしていくと、これは一つの e コミュニティに変わっていく。それから IT を一つの接点としてつなぎあってできてくるコミュニティ。「山形あらかると」「情報レポーター」。これもそういったつながりであったかと思うんですね。

決してバーチャルなものではないんですね。IT を道具として使うというのが一つの共通の接点なんです。そして自ら情報を伝えていくという形なんです。自ら伝える情報の部分に限って言うと、前回の講座の中で解説をした「e ポートフォリオ」という形であったりするわけです。それがさらに情報レポーターという形での活動になるとすると、それが情報レポートサイトになっていくということなんですね。それをポートフォリオと言うか、情報レポートと言うかは、あまりたいした違いではないんですけども、ただ、それが5年、10年と続けば、自ずとそこには大きな情報の蓄積ができていくということなんです。それはどういう内容、形態であれ、ポートフォリオが一つ一つ成り立っている。そしてポートフォリオを協働で作るということもあるということなんですね。そして一人一人の発信しているものが束なると、それがまた束なった形でのものになっていくということなんですね。共有されていくということなんですね。

このようにポートフォリオ、あるいはそれを使った形での取り組みを通じて人と人とがつながっていく。こういうふうな新しいあり方です。これを「e コミュニティ」と考えたいと思います。

L218 学習講座はきっかけ作り

最初のきっかけというものは、公開講座のような、ワークショップのようなものであったりするわけですが、当然、それはその場限りですから、それで終わりです。ただ、それを一つのきっかけとして、そこで知り合った皆さんが何か次の展開を始めていくというふうに行くわけですね。これが持続性のあるコミュニティになっていく可能性があるわけですね。

今日、こちらにお越しになっている皆さんは、2年経って、これからどう進めていけばいいのかなというところを、自分たちの中で答を出しつつあるということなんです。これからも未長く見守っていきたいと思っています。

L220 give and take で学ぼう

でも、そのように教えあう、学びあうというのが、まさに生涯学習講座の、これまでのやり方に替わるものですから、お互いに教わる、学ぶという形なわけです。ですからご迷惑をかけたという面もありますけれども、むしろ教えてもらう人にとっては、教えてあげることによってまた学ぶことがあるわけですから。その give and take だと思うんですね。それがこれからの新しい学び方ではないかなと思うんですね。それが「e コミュニティ」の意味するところなんです。それが学習コミュニティであることの意味なんです。

これはやはり人間関係。こういうつながりがないと、それはできないわけですよ。そうすると、これをどういうふうに導入していくといいのかということなんです。今こういうものができればいいんだけど、なかなか出来そうで出来ないという、いくつかの壁があるように思います。

=====

< 協働学習企画ケース 2 >

=====

E204 いばらき L3 ネット

(出演) 葛貫壮四郎さん (茨城県ひたちなか市)

(出演) 石川愼二さん (茨城県水戸市、いばらき L3 ネット会長)

(聞き手) 前川道博 (東北芸術工科大学専任講師)

(2002/11 放送大学茨城学習センターPC クラブ「AirPC」で開いた PushCorn ワークショップの様子)

葛貫 プッシュするとボンと何か出てくると思ってください。出てきたのがこのホームページです。自動作成して、これは例題に出ているカラスウリの花。こういうふうに出てきます。ボンボンと、テキストと画像入れるだけで出ちゃうという非常に簡単なものです。

(ある人が作ったひまわり畑のページ)

葛貫 いちおう文章は入っていないんですが、雰囲気は出てますよね。(画像をクリックして大きな画像

を表示)

会場の声 凄いですね。凄い、凄い。

(石川さんが自分のページを紹介)

石川 ここにいる人が作ったんです。この方はうちの町内の人なんですけど、お面の先生なんです。

(ワークショップの様子はここまで)

石川 いろんな価値観のある人がいてね。本当に面白いですね。というのはね。例えば、こう、歴史が好きな人、経済が好きな人、いろいろいますよね。それだけで終わっちゃうんです。それで。

何かあるやつが、そうやって、何か蓄積されて、もしかするとそれが財産...ね。財産になって残っていく。それからいろんな人がそれを見てどうだこうだ。

葛貴 やはり自分が興味を持ったものを何かやりたいと。こう手を挙げてですね。それに来っているのが一番いいんですよね。一番最初に「勘十郎堀」っていうのが何気なく、前川さんがしゃべっていただいて「じゃあやろうじゃないか」ということで盛り上がりましたよね。ああいう感じで誰かがやりましょうという、パッとこう集まると、そういうのが非常にいいと思うんですよね。興味が皆違うんですね。あの、いいんじゃないかと思っています。

(2003/03/18 協働学習「勘十郎堀探訪」の様子)

石川 おそらく、行って、「ああ」と。あのね、建物を茅葺屋根にしたら、もう江戸時代にタイムスリップします。多分。あの雰囲気は私は凄く感激しました。是非カメラのチャンスです。

(涸沼川の前で)

石川 涸沼。涸沼川です。こう蛇行してます。

葛貴 こんなに蛇行してるんだ。

石川 この角度は太平洋と平行していますからね。栃木県。カラスグリ?山とか、那珂川から筏を組んで降ろして来たんです。

(勘十郎堀の跡で)

石川 だけど。これね。ずーっとハイキングでね、ずーっと10何キロ歩くの面白いよ、これ。

前川 勘十郎堀のあのとき、皆さんをいろいろとご案内いただいて、あれ非常によかったですね。

石川 本当にね。予期もしないのに本当に楽しかったですよ。

(茨城県茨城町・舟運で栄えた海老沢宿の風景)

石川 海老沢宿の駒形神社の。馬籠だと。これは。

(長野県の馬籠宿の風景)

石川 新道を走らないで旧道があるところは旧道をなるべく車で走ってみると。そうすると昔の面影がね。街道筋、宿場にありますがね。

葛貫 その後は L3 ネットでは「石岡のおまつり」ですね。あれも非常によかったですね。私も初めてですね、石岡のまつりにいって、ああ、こんなに凄いなってということ。

石川 新撰組よりも天狗党の考え方の方が、今の日本に対する影響から考えたら、あれの方が大きいんじゃないかと。我々はもっと地元としては天狗党に関して言えば、その時の革新的な考え方。それをやっぱり、もっとクローズアップしてみたらもっと面白いんじゃないかと。

E205 わが町再発見プロジェクト

(出演) 中井川由治さん(ひたちなか商工会議所振興部商工振興課係長)

(出演) 葛貫壮四郎さん(IT-DOCTOR CORPORATION 代表取締役、わが町再発見プロジェクトリーダー)

(出演) 村山典男さん(NPO 法人コミュニティ NET ひたち)

(出演) 樋之口英嗣さん(ひたちなか市議会議員)

(出演) 宮田貞夫さん(ハンブティビジネスコンサルティング代表)

(出演) 園部久一さん(ひたちなか商工会議所振興部部長)

中井川 これは提案公募型の一応事業という事で。従来ですと、行政あるいはあの商工会議所の方が主体となりまして事業を実施してきたという事になりなんですけども。少数のグループがですね地域の資源とか、あと皆さんのアイデアを活用して事業をする場合に、助成をしまして、町おこしの推進を図っていくといった事業になっております。

葛貫 ブロードバンドが非常に普及したということで、IT 環境も非常に改善したという事ですが。実際に市民からの情報発信というのが非常に少ないというのが現実だという事。これからは、市民がどんどん主導権として、新しい事をやって、コミュニティーで学習しようということをしをどんどんやっていかないとだめだろうと。そのためには IT を活用して、情報を発信をして、地域の活性化を図ろうという話で、わが町再発見というタイトルつけました。

村山 私なんかもそうなんですけど。要は、学習というんで、暇になったんで学習を受けたんですが。要は、学習するだけではあんまり意味が無いと思うんですよね。学習しても年を取ってインプットしてみても社会貢献あんまりないから。むしろ長い経験積んできたものを活かして、学ぶよりも出す方に力を入れるべきじゃないかな。そういう意味で、もっともっと IT をベースにして、ベースを持ち上げてたいなあ。そういう気持ちを持ってるんですけどもね。

樋之口 僕のスタンスは基本的にひたちなかのコンテンツをいかに、どんなメディアに載せていこうかという事を考えて。たまたま葛貫さんのこういう IT 関係があるという事。こういうひたちなかのリソースを何に載せていこうかという事を常に思ってます。ですから、こういう風なメディアを重要視したい。こういう風に思ってるんです。

宮田 「カツコンペ」自身は、その勝田地区の宣伝のために、「カツ」をとにかく中心に活性化というような事なんです。みなさんでカツコンペに参加して、カツを作る事を競いましょう、おいしいカツを作りましょうという事だったんですが。そこを今回のプッシュコーンという技術で動画を配信することによってですね。まず、いくつかこう切れてですね、動画が切れて、それぞれの場面が注意書きによって出てる。そうすると「あ、これはどういう内容なんだな」という事が一瞬の内にわかって。なおかつ、この内容をクリックする事によってその動画が配信される。ということで、非常にイベントなどを配信する方法として、非常に面白い技術だなと思ったんですね。切りがきちっとパパパパパとなって説明がついて、クリックすればそこを見れると。臨場感もあるということで。ということで、参加者も非常にあの、特に入賞者あたりはですね、皆さんにアドレスを配ってですね、「見て見て」っていうふうな感じで。皆さんに、ぱっとそれを見ると一瞬の内にイベントの全体がこう分かって。ということで、こういうイベントの宣伝にはプッシュコーンの形式というのが非常にいいんじゃないかな。

園部 グループとしてですね、町おこし、産業起こしとしてやる気のある方。そういう組織をつくってくれた事に対しては非常に評価してます。なかなか行政、会議所でやろうという事ですとおざなりですね、行動しか出来ませんけれども。自分たちでやろうとすると、色んな人脈を使ってですね一つの事業を成り立っていかせるという事で非常によかったのかなと思っております。(略)一般市民の方に、どう広報して、活用してもらえたらいいということですよ。今の段階ではお仲間意識というか、それぞれの各先生の中の人脈の中でその取り組んできたと思うんで。それをいかにその一般の市民の方に、PR していくかという事が、今後大事になっていくんじゃないかと思っておりますけど。

宮田 皆さんに楽しんで頂くとか、見る人に楽しんで頂くとか、それからイベント参加者に楽しんで頂くとか。それをいかに PR していく、いかに体験して頂くのが鍵かなと思います。私も、プッシュコーンという言葉聞いたときは、何なのだろうと思ったんですけど。実際やってみるとこれって意外と面白いじゃないと、使えるじゃないと、それと知ってる人も出てるなあと。こういうのをうまく楽しみというか、面白さというのを、どうやってPR していくかというのが鍵かなと思います。

園部 学習というと、机に向かって勉強しなくちゃならないかという。生き甲斐作りと思うんですね、生涯学習というのは。ですからその辺やさしい言葉で表現してもらいたいかなと思いますけどね。

=====

<e ポートフォリオ学習の指導>

=====

E206 学校でe ポートフォリオ

(出演) 鈴木伸治さん(東根市立高崎小学校教諭)

(出演) 海野芳さん(東根市立高崎小学校校長)

鈴木 「初めに教えることがありき」ではなくて、自分たちが疑問に思ったことを自分たちで解決しているというふうなところです。

子どもたちが全部企画しています。子どもたちと一緒に作っていくような感じで、基本的には子どもたちが主体ということで授業を進めています。

海野 (ポートフォリオ学習は)子どもが一番見えてくる方法だろうと思っています。また、私たちの指導の方向というのと、それから中身といいますかね。そういうのがより明確に見えてきて、子供が見えて、教材も見えて、指導の方向性も見えるという非常に有効なやり方ではないかと捉えています。

鈴木 (手にしたのを見て)これも一種のポートフォリオだと思うんですけども、これをお互いにこう見せ合うことによって、「こういうところがいいね」とかいうように他の人のいいところに気づいて、更に自分の意見も認められたなんてなれば、最高に嬉しいだろうし、学習が凄く充実したものになる。

海野 簡単に言うとスパイラルに続いていくというふうにつまえていい。積み上げが、子どもたち自身が積みあがっていくことが自覚できる。

鈴木 こういうのがあれば、私たち指導者としても、この子はこういうふうな考え方をしている、今度は友達のいいところを取り入れたってということは、成長が見られるわけですよね。その成長のところ、評価できていけるだろうと。そこがポートフォリオの一番いいところではないかなと思います。

子供たちに本当につけさせたい力は何かというふうに分で捉えた時に、もちろん教科独自の内容というか。知識であり、そういったものは必要だと思います。あと、そこに意欲がないとそれとうまく関連していかないのだろうと。そればかりやっていると途中で飽きてしまうし、挫折してしまうし、ということが起きてしまう。自分がやりたいことがあって、そのやりたいことを到達していくためにそのスキルがうまく融合されたときに、はじめてそのスキルの意味も出てくるし、私たちが狙っている、自分たちから進んでやるといったところの力も伸びていくし、ということで。つまり、どちらかを重視するのではなくて、どちらも重視しながら、相互的に高めていければいいかなって思っています。

E207 チャレンジキッズ

(出演) 太田容次さん(滋賀大学教育学部附属養護学校教諭)

(出演) チャレンジキッズ研究会の皆さん(映像のみ出演)

太田 ここは、愛媛大学附属養護学校です。チャレンジキッズ研究会のメンバーが全国から集まっています。

ここで、e ポートフォリオについて養護学校であるとか、地域の特殊学級などで使われている。もしくはこれから使っていく上でどうかということで、チャレンジキッズ研究会で試しにいくつか使ってみた話

を元に、みんなで考えてみたいと思います。

まず最初に私、昨年度の取り組みとして総合的な学習の時間に、子供たちが実体験した事を、日頃、日記とか作文とかで、しかも、振り返りの材料としては、カメラで撮った動画をテレビで一斉に見る。こういったプロジェクターなんかを使って一斉に見て、それを元に振り返って作文にするというような取り組みとずっと続けてるんですけど。

それとデジカメで撮った静止画、それからビデオで撮ったビデオクリップに初め生成しておいた、ファイルサーバーに置いて、自分が好きなように振り返りながら、自分の好きなものを組み合わせながら。そしてさらに、数行の感想を組み合わせる、みたいな取り組みをしました。

そうすると、これまで、例えば運動会であるとか文化祭であるとか、全く書き出しに20分かかって、一行書いて鉛筆で消して、40分の授業終わったら結局二行くらいしか書いてへんかったような子供が、自分の目線で自分のペースで振り返り。さらに、それを自分の中で pushcorn を使って、振り返っていく中で、あっという間に Web ページを仕上げた。それから課題別学習を担当する教員がそれを見て非常に驚いて。その違いはなんだろうなということで、昨年度から研究の観点からまとめてみたんですけども。

学習活動で使う限定する事によってほとんどの子供が使えましたね。軽度の子供たちについては、むしろ出来上がりの完成度の高さで、また後から振り返りに使ってみても、前残った。例えばある障害持ってる子の感想が面白かったのが、「自分は忘れる事がかなわんから、ずっと日記を書いたりメモしたりしている。でもメモしたものがどっかいくねん僕は。でもこれを、こういうふうに溜まっていると、いつどんなことをやって、どんなふう思ったか、振り返って、それが非常によい」みたいな感想を持ったんですけども。

E208 子どもを育む教育のアイデア

(出演) 杉浦正吾 (環境カウンセラー)

(聞き手) 前川道博

前川 今は、いくつかこう、条件がだいぶ変わった、一つはもうデジカメがかなり普及した、これだから、もう「写ルンです」は使わなくてよくなりましたよね。

杉浦 しかも今、デジビデ、というか動画ですよ。動画のクリッピングというのですか。まだ私はそこまであまり体感した事がないですけども、話にはうかがってますね。それは本当にそうなってくればすごいなと思いますね。そういう時代なんでしょうねもう。

前川 だからそう、エコウォークでデジカメで撮っていた、デジカメというか、写ルンですで撮ってた。あれがまずデジカメに変わりうるんでしょうけど、加えてビデオで撮って来る。デジカメだと選んで撮って来る、デジカメだと選んでバシャバシャと、それはそれで選んだ事に意味があるんでしょうけれども。ビデオ撮るというのも何を撮ったかというのも、それはそれで面白い。

杉浦 ビデオで撮る良さというのは、静止画は意図的に撮るわけですよ、ですがその動画は意図しない何かが、事件が起こる訳ですね。その事件というのは「トンボが飛んでくる」でもいいんですけども。

そういうその突発的な面白さというかですね。動画の良さですよ。それはまた後で編集してもいいですし。

文科省の制度で、学校評議委員制というのがあって、去年からとある協議委員やってるんですけども。そこで、校長先生と話してた中で。子供の職場体験というのを非常に重んじてるんですね。教科学習だけでなく、キャリア学習というか。自分が将来どういう風に進むのかとかみたいな。子供達今、自分の進む指針とか夢とかが持てないとかねいわれてて。

それも、自分の体験できる業種に限られるわけで。なんでもいいですけど。お寿司屋さんに行ったら、お寿司さんの体験しかできないわけですね。

ところが、デジビとかデジカメでもいいですけど、持って行ってそれこそ三人一チームで持って行って、そこで撮って戻ってくれば、十、二十の業態に各子供たちが行けば。二十業種のひとつのあの。子供たちが見て将来考えるような、一大教材が出来る訳で、なんでも出来るなという気はしますね、私が先生だったらこれやりたいですね。君たち行くだけでなく、君たちの体験を君たちの言葉で語るのもこれもよし、だけど、それをみんなに伝える、みんなで共有するみたいだね。それもまたデジタル化のいい所じゃないですか。

前川 これ、情報レポーターというのだろうか、自分で伝える言葉を発する。これやるとすごくいいんだよね。表現するという事を、半ば強制的にやらせるじゃなくて、こう引き出させるという。その意味がとても大きくて、その経験値がないと表現する幅も変わって来る、発見する質も変わって来るんですよ。意図的にそういう風にするといい。

杉浦 本当、子供たちに任せちゃってね、後はもう勝手にやらせる。ビデオの使い方だけ教えてね。

前川 「最後にコメントつけるよー」とか言って。

杉浦 十分だと思いますね。これを数年間、つづけたら、その学校のライブラリができてですね、まあインターネット上でもいんでしょうけど。興味がある、よくわかんないですけど、まあ三年も四年もつづればかなりのライブラリが出来るでしょうから。おもしろいですよね。

前川 そうですね、出来たらいいなという事ですね。

杉浦 そうですね。それはでも、進路指導にも役に立ちますから、実質もあると思いますね。先生方にとっては。

前川 それもうやろうと思えば出来ますね。先生の、後は問題。やれる、やると思えば...

杉浦 意思の問題ですね。

【 2 】 協働学習で地域活動 / 裏方のサーバ運用

=====

< 地域で学び合い教え合う >

=====

L232 e コミュニティを育てよう

私たちも 2002 年に公開講座「PushCorn ワークショップ」を開いて、本当に e コミュニティができるんだらうかということは半信半疑の部分もありましたが、それでもそうしたグループが各地に形成されつつあります。山形の例で言うと、一つは「やまがたネット」というものがあります。東根インターネットクラブ、そしてひがしねネットですね。東根市を中心とした人たちのつながりができています。そしてやまがたネットは一方で国文祭情報レポーター、「山形あらかると」の皆さんのような展開を生み出しているということもあるわけなんです。

それから「かすみがうら*ネット」。茨城県の方のかすみがうら*ネット。環境、霞ヶ浦の様子、市民団体の活動などを記録していこうという取り組みが一つ育ってきつつあります。それ以外にもいくつかの学習グループが広がりつつあります。こういったものがこの 1 年、2 年の間に徐々に育ってきました。まだまだ時間が経って間もないこともありますので、これから本当に 3 年、4 年、5 年と続いたときに、さらに本物に近づいていくというふうな成熟をしていくんだらうと見ています。

L233 協働学習は現代の寺子屋

ここでは生涯学習が e コミュニティを作る。これが不可分に結びついていくようなものを提案したいと考えています。これは昔の例で言えば、寺子屋に近いものかもしれませんが、お互いに教えあい、教えられるという関係ですね。学びあい、学ぶという関係ですね。これが生涯学習の望ましい姿ではないだろうかと思えます。地域に根ざしていくというのがとても意味のあることなんです。それは今ネット社会になって、遠隔地でもお互いに情報の交換ができるようになりました。ただやはり顔と顔を合わせておつきあひする。そこで直接お会いする中で学んでいくと、そういう面はどうしても必要なんです。なかなかその部分がないと、自分で行き詰まったときになかなか助けにくいという面があったりするのは現実にもそうなんです。

これは一つ地域の中でリアルな人のネットワークと共に e コミュニティができていくといいというのが望ましい姿かもしれないと考えています。

L228 企画力のあるリーダーを

協働学習ということなのですが、何を企画するかということは、それを企画し、コーディネートしてくださるリーダーになるクラスの方が求められるということなんです。ですから社会教育施設でこういったものを企画されるときには、講座を企画される方が、講師を呼んでレクチャーをしていただくというような発想から転換していただいて、皆で学びあうというふうな一つ、寺子屋のようなイメージで捉えていただくといいんじゃないかと思うんですけれども、皆が集ってそこで何か学べるという形を引き出していただけのような企画をしていただけないかと思うんです。

これはいろんな切り口があると思うんですね。その辺もまた皆さんと一緒に考えていけるといいと思っています。

一つは地域づくりっていうのがあると思うんですね。自分たちの地域を活性化するために何をすればいいんだろうかというアイデアを出し合う。それをやっていくということですね。

それから学校で子どもたちがいろいろ学んでいます。お父さんお母さんも一緒に何か出来るとよかったです。なかなかそういう親の交流ってないんだと思うんですよ。何かの機会に親子で参加できるような場を設けてもらうとかですね。それもまた学習機会を提供していくということになると思うんですね。

そう考えるといろいろあるはずなんです。それを是非皆さんの中で、じゃあ、自分たちは何をするといいのかなというふうにお考えいただくといいかと思えます。

L229 自発的に参画し協働で

協働学習がどういうものかということなんですけれども、一人一人の自発的なものの持ち合い、そしてそのコラボレーション。やりとりですね。掛け合いといいますか。そういうふうなものではないかと思えます。そして e コミュニティというものなんですけれども、一人一人がしっかりと自分の興味のあるものを持っている。そして活動を持っているということであって欲しいと考えています。これは豊かな地域づくり、豊かな社会を作っていくということであれば一人一人が参画していく。そしてまたそのつながりで地域社会もできていくという成り立ち。これと全く重ねてみるすることができます。一人一人が自発的、自律的に参画していくという関係性ですね。これが何よりも求められるものなんです。

そしてその接点としては、皆が興味を持って持続していけるようなものですね。これがコーディネートされているといいということなんです。そういった活動がやがては、未長く持続性のあるものになっていくと望ましいということなんです。それを通じて IT というものを目的ではなく、手段として役立てていくという文化がそこに根付いていく、形成されていくというものになっていくんであると考えています。

L230 皆が参画しやすい企画を

協働学習をどのようにコーディネートすればいいんだろうかということなのですが、いくつかポイントがあるかと思えます。それはポリシーと言いますか。何のためにそれをしていくのかという理念、運営方針を持つということですね。その上で全体をコーディネートしていくということです。

ですから、これは生涯学習施設であれば、施設の担当の方がそれをしっかりと企画していければいいです。それから地域の人とも連携しあっていくというふうなつながりができるとさらにそれが、より豊かな

ものになっていきます。企画についても皆が参画しやすいような企画を考える。そしてあまり硬く考える必要もないと思うんですね。どんなテーマでもいけます。ただそこに興味を持って参加できる人たちが多いというのがまずいいのではないかと思います。学校でも学んでいる子どもたちが今度は親と一緒に何かやってみるとかですね。そういったちょっとした誘いかけ。発想の転換。それがあかないかで、できるかできないかが大きくかわってしまうわけなんですね。

=====

<e コミュニティ訪問>

=====

E209 東根インターネットクラブ

(出演)伊勢博さん(東根インターネットクラブ会長)

伊勢 仕事で20年ぐらいですね、実家を離れていたんですが、ユーターンということで20年ぶりぐらいに実家に戻ってきました。そこで私が最初に直面した問題というのが、いかに地元の方とですね、おつきあいくるかという部分で地元のいろんな方とおつきあいをしたいと思ひまして、まず最初にメーリングリストを市内で立ち上げまして、そこでいろんな方とネット上のいろんな意見交換をさせていただきました。

そうしているうちに、メーリングリストのメンバーがですね。クラブを作って皆で直接交流しあうような組織になってもいいんじゃないかなというご意見をいただきまして、それから「東根インターネットクラブ」というのを立ち上げました。

皆でお互いにパソコンをですね。わからないところを教えあおうというような勉強会をやったらどうかということで、勉強会をずっとやってきました。

結構、ですね。パソコン慣れてる方でもですね。よく知らないところが結構あるんですよ、パソコンというのは。ほんのちょっとしたことなんですけど、ファンクションとかショートカットとか、いろんな操作があるわけですけども、非常に便利な使い方があったりしてですね。それがやっぱり自分一人だとわからない世界で、それがたまたま隣の人のパソコンの操作を見てたら、「あれ、今の何か面白そうだね」ということで、「それどうやるんですか?」というようなところから教えていただくというところの積み上げが自分のITの基礎、知識づくりになっていくと思うんですね。

自分自身ですね。パソコンを最初に求めてどうやって覚えたかという、自分のことを振り返りますと、やはり周りの人に聞いたんですね。それがやっぱり一番早道だったわけです。そういうところをですね。皆さんに是非実践していただいて、わからないところはわかる人に聞くと。皆が先生になって、わからないところは教えあうというようなことで、勉強会をやっておりますね。

その勉強会でいろんなパソコンの話はもちろんなんですが、パソコン以外の話もいっぱい出てきてですね。やはり地元に住んでいる方が殆どですので、いろんな話が出てきて、そんな中からまた新たなグループが誕生したりしてですね。そういう意味では我々のクラブというのは、一つの社交の場になっているのかなと思いますね。

クラブの中で得られたパソコンの知識とかですね。またいろんな人脈もできたと思います。そういうところを是非会員の方にうまく活用していただいて、本来の皆さんの活動をさらにですね。リーダー的な存

在と、できればなっていたいで、活躍していただきたいと思うんですね。

E210 山形県新庄市 FM Flower

(出演) 田中玲さん (FM Flower 会長)

(出演) 前川道博 (東北芸術工科大学専任講師)

田中 FMフラワーの会長の田中です。FMフラワーは山形県新庄市の中心市街地にありました空き店舗を使って2003年の1月6日に開局した住民参加型のコミュニティです。子育ての番組ですとか、音楽番組やスポーツ番組など様々なジャンルの番組を中心に毎日12時から20時まで放送しています。ミニFMですので、スタジオから半径、約200~300メートルくらいしか電波の提供エリアがありませんので、もっと多くの方に情報をお届けしようということでその年の9月12日から今度はインターネットを使って動画配信をスタートしました。そちらはwebフラワーと呼んでいます。

田中 企画とか何をしたい。こういうふうにはできないかと考えることのほうがよっぽど人間の知恵というか、それをあくまでもサポートするのが情報技術というものだと思うので。

特定のツールを使わずに、みんなの書き込みできるCGIを使って更新情報とか、プッシュコーンを使って放送っていうのも動画の放送にはうってつけのインフラだなと思って今利用させていただいてまして。

前川 全国にいる新庄の人たち？ そういうネットワークなどについても考えているわけですよね？

田中 そうですね。今度情報番組もインターネット版で放送するんですよ。それなんかは遠方で暮らしている新庄出身の人が見てくれると、「うちの隣で があったんだ」とか。極端なんですけど。「うちの町内で をするんだ」などというのを遠くで暮らされている方が見たり、今度もうすぐお盆ですけども、お盆の前に新庄に帰ろうかなというときに見てくれたりすると、「じゃあ、俺が帰る頃にはこういうことをやるんだ」などというのが伝わりますよね。なので、離れている新庄の人たちとかを取り込んで、このコミュニティにバーチャルな形で参加していただくとかですね。情報を見てもらったり、逆にそれを何かをもらうとかですね。そういうつながりがもしかしたら将来的にはできてくるかもしれない。まあ、使いようでかなりいろいろなことができるというふうには思っています。

前川 最初、FMフラワーをみんなではじめようと呼びかけ始めたんですよね？

田中 そうですね。

前川 実際にここで活動しているっていうことは、いろんなことを多分皆さん学ばれているんだと思うんですよ。地域の情報、どう出していけばいいんだろうとか。どういふのがあるんだろうとか。皆でやる中で、こういろいろあったりすると思うんですよね。

まさにこのFMフラワーは、そういう学習コミュニティになっていると思うんですよ。あえて学習っていう言い方はなくてもね。地域づくりで人がつながっていく。そこでいろんなことを発見したり学んだりしていく、非常に「総合的な学習」をしているというふうに見えることができるんですね。

田中 FM放送というのはそれが全ての最終目標ではなくて、これをやることによっていろいろな人と知り合ったり付き合いができたりつながりがあって輪が広がって行って大きくなっていく。人と人とのつながりを作っていく手段のひとつであると。それが僕らはたまたまFMだったということだと思います。

=====

<裏方のサーバ運用>

=====

L227 サーバを運用して皆で共有

こういったコミュニティを作る仕掛けとして、私たちはポートフォリオのツールを、サーバで皆で運用するというモデルを提案しています。今回こちらにお集まりいただいている皆さんは、地元山形ですので、「やまがたネット」という、これも一つのeコミュニティなんですけれども、サーバを運用しそれを皆さんが共有できるようにするという形で運用しています。

ただこういうのは裏方の仕事ですので、説明しても人にはなかなかわかってもらえないという面が現実にあります。ですけれども、自分たちが必要なことを実現しようとするれば、権利の実現ですから、そこは責任もあるし対価も伴うということでもあったりするわけなんですね。そうすると実際にはお金もかかる。人手もかかるということになるわけなんです。こういうことも合わせて解決していかないといけないことでもあったりするんですよ。

L240 サーバは経費も手間もかかる

このように協働学習で皆が参加してポートフォリオを作る。あるいはデジタルアーカイブを作るということができます。ただそれをどのように運用すればいいのだろうかというのが、また次の課題になります。

というのはホームページをネット上に開くためには、サーバがないといけません。サーバというものがないとホームページを公開することができません。サーバというものが必要になってきます。

そして、このようにたくさんの人たちのものをどんどん載せていく。そして画像も音声もビデオも載せていくとなると、たくさん容量がいります。ですから普通のサービスではそういうものに対応することができません。ですから、いかにこういうサーバ、サービスを実現していくかは大きな課題になっていくんですね。

こういうことについては、なかなか技術的な話になったりして、よくわからない、ということで、生涯学習施設でこういうものを導入する時のネックになっています。わからないから業者さんに頼む。そしてコストをかける。こういうのも実際に難しかったです。

じゃあ、どうすればいいんだろうか。それは一番安いコストでできる方法が一番いいわけなんですね。ということは例えばどういうことかと言うと、学習グループの中で有志の方がサーバを管理したり運用したりする。あるいは何人が技術のわかる方が分担してボランティアに支えていく。そういうふうなことが考えられます。それも地域活動の一つと考えられるんですね。

これまでは地域活動といった時に、IT が関わってこなかった。ですから、そういったことが発想の中に全くなかったかと思うんです。ですけれどもこれからは IT を活用していく時代です。ですから地域の中に技術的な面を支えることのできる人がいないと、なかなかそういうコミュニティを作る、情報を共有するということの支援は難しいんですね。

で、これを施設の中だけで解決しようとする、ちょっと難しい面があります。どうしてもお世話をしないといけない。すると難しいからわからないということになります。その一方でお金もかかります。じゃあ、これをどうすればいいんだろうかということなんですね。

一つはお金の経費的なところで、負担できるところは負担していただくと、実は非常にいい運用ができるという例をこれからお見せしたいと思います。そしてそれを市民の方が支えるという形でコミュニティが運営できるというモデルケースをご紹介しますと思います。

L241 サーバや技術も学ぶと面白い

私たちがいろいろな取り組みをしながら、サーバを作ったり運用するのは難しいのではないかなと思ってきました。実際にそう思って、普通の方にはわからなくてもいいという形でやってきた面もあります。ですけれども必ずしもそうではないということに気づきました。それは私たちの一つの成果なんですね。

IT を活用する。ポートフォリオを作る。グループでデジタルアーカイブを運用する。共有する。こういう文化が育っていくと、これまでは全くブラックボックスでよかったサーバという、裏側にあるものですね。ここに皆さん興味を持ってくるんです。一体これは何なんだろうというふうに興味が湧くんです。それを決して隠しちゃいけないんですね。これはむしろよく理解していただくことによって、自分たちがやっていることの意味とか、あるいは全く裏方でやっていたんだけど、実はとても大きな役割を果たしている管理者の方の貢献度とかいったものが見えてくるんですね。これもまたお互いに教えあう、学びあう。こういう関係がとても大事なんです。お互いに理解しあう。とても大切なことなんですね。これが情報の理解をまた一歩深めるわけです。そういう学び方もとても大切であると、この場を借りて皆さんにお伝えしたいと思います。

L243 サーバって何？

こういう情報を共有する。輪を広げていくためにサーバというものがとても大切なわけなんですけれども、サーバというものをどういうふうに学ぶことができるんだろうか。あるいはどういうふうに見ていくとサーバというものが面白いのか、あるいはどういうものなのかということをご紹介していきたいと思います。

E211 サーバとeコミュニティ

(出演)前川道博(東北芸術工科大学専任講師)

(出演) 本間俊光さん(山形県山形市)

(出演) 伊藤隆善さん(東北芸術工科大学前川研究室)

(出演) 堀清人さん(やまがたネット代表)

前川 パソコンが使えるようになる。じゃあ、次は何ができるかと言うと、実はサーバを作ることもできなくはないんですね。それも技術的な壁が立ちはだかっているのかということかということではないと。

本間 皆と一緒にサーバを作りましょうというような呼びかけをして、3時間ぐらい皆でわあわあやって途中いろいろありましたけれども、何やかんややっているうちにとりあえずサーバが動いたんですね。そのサーバというのは、コンピュータは、自分が部品買ってきて組み立てたコンピュータで、ソフトは何も入っていないコンピュータだったんですね。それはお金がかかっているんですが、中に入れたソフトってというのは、Linux というオープンソースで開発されたソフトで、その時には学校の先生方をお二人お招きして予備知識何もないところからインストールしたらどんな按配になるかということで、それもちょっと実験的に試させていただいたんですね。

伊藤さんに脇からアドバイスいただくと。かなり頻繁にアドバイスをいただくようになったわけですが、そのやりとりの中で結構、お互いに学ぶところがあったんじゃないかと思うんですが、伊藤さんはその辺、実際にその場でアドバイスを与える立場となってどういう感じでしたか。

伊藤 そうですね。こういうところで、まさかこういうところでつまづくとは思わなかったというところでつまづかれるってということがありましたので。それ以前にインストール用のマニュアルというのを作っただけですけども、どこでつまづくのかってことを書いていけば、よりよかったんじゃないかと思って、新しいマニュアルの参考になりました。

本間 それからその後のメンテにしても、いろんな情報がネット上にありますから、そこで調べてかなりなところまでできると。

前川 サーバを作って運用するっていうのは、全く縁がないものでもなくて、難しいものでもなくて、やはり「興味」というものがあると、それが一つの学ぶ対象にもなるし、面白さにもなっていくということなんだなあ、ということメッセージとして受け取りましたね。

堀 人のつながりということで「やまがたネット」は進んできましたし、今後は PushCorn というものの維持管理というものを含みまして、サービスの提供ということを組織化して、それに対処していかなければと思っています。それからいろいろな方々と一緒に活動することによって、この広がった輪をさらに大きく、そして根付くような形に進めていきたいと思っています。

=====
<生涯学習政策に届けたい声>
=====

 E212 HPを作りたい：高齢者のニーズ

(出演) 山口文夫さん(茨城県石岡市)

山口 e-idobata というのは、おもにこの IT 技術を使って文字通り井戸端会議で、自由にいろんなことを言おうということなんですけれども。意外と皆さん IT リテラシー特に高齢者において IT リテラシーは、どういことをすべきかという事に中心をおいたアンケートだったんですけど、やっぱり自分でホームページを作りたいというような方がけっこう多かったんですね。で、アンケートの用紙に書いてないような事をあとで個別に聞くと、特にその比率が高いというので、なんとか簡単に自分の考えをまとめて外に発表できるような、そういうものがあればいいなというようなことをまずは思っていました。

E213 高齢者のためのネット活用

(出演) 野中寿夫さん(茨城県千代田町)

野中 (IT 講習会受講者の年齢別分布) グラフを見ながら) 高齢者、こちら側のエリアですね。これ当然意味がある訳ですね、男の場合には会社につとめていますからだいたいこの辺でどこかの組織、仕事やなにかでコンピュータを使っていますね、このへんから定年退職などをやってだんだん高齢者減っていく訳ですけども。こういう状態で、女性の場合には、もちろんこの辺が完全に欠けてる訳です。年齢構成というのは実はこの辺にあるんですけども、2005 年の予想だと、こんなになるはずなんですよね。この辺の年齢層というのはそんなに減っている訳ではないんですよ。ということはこの辺までは潜在的に抜けていると。そういう層をどうするの? というのが一つある訳ですよ。だから情報弱者含めてね、そういうことをやっていかないとけない。そのためには、やっぱりネットワークをうまく使って日頃からいろいろな支援体制ができないとなりたないんではないかな。使えない人は永久に使えないんです、これ。だから、こういうものに参加したくても参加する事ができない。ではどうすればいいか。

E214 公民館に眠るパソコンの活用策

(出演) 野中寿夫さん(茨城県千代田町)

野中 当時いろんなパソコンがたくさん配布されたんですね、自治体に。ところが、自治体のパソコン今どうなっているかというと、時々講習会で使う。これあるんですね、まあそこが活用されているんです。ところがあとは、何力所か私はしてますけども、全部どこかの倉庫にしまって、パソコンの役目をしていないですね、ただの箱になっている。もったいないですね。ある市の話だと、7つぐらい公民館があるという話で、そこに20台ぐらい配布されていると、100何台あるはずなんです。でも、そういうものがみんなしまわれちゃってる。だったらそれをインターネットにを使って常設できるようにできませんかとくるんだけど、みんな、公民館は「担当私じゃありません」と。で、教育課へ行くと、またそこで問題があってね、お金...とすぐ考えちゃうのか、なかなかそれできないんですね。そういう整備はしてないし、これを使って成果をどうして行こうとか、高齢者にこうしてこう、若い人にこうしようとか、話はどこでもこういうところなんです、不思議とね。それで講習会が Word が何時間、Excel が何時間、と

かそういう話ばかりしかない。だから、それをやるには自由に皆さんが使えて、しかも、こういう一番講習会をやる時問題があるのは、必ずトラブルがあるんですよ。質問も受けますけどね。それにたいして対応できないと実際には自分でやれないんですよ。

E215 グループ活動を記録しよう

(出演) 高中陽一さん(茨城県ひたちなか市)

高中 パステル画というのがありましてね、そののちょっと講座を受けまして、そこで40人ぐらい。別れてしまうのも寂しいだろうと。やはり継続してやろうということでオフ会を作りましてね。今30人で、もう何年も経ちますけど。毎年美術館で展覧会をやったり、月二回集まりましてね、やってるんですよ。それからあの、トレッキングのはじめなんて登山と温泉なんて講座もありまして、そのあとでやっぱり、せっかく学んだんだからみんなで会を作ろうということで、年に5,6回ですね、日帰りなんですけど軽い登山をして必ず温泉に入って帰って来るといようなあれで、今も継続してます。一応30人ぐらいで。

今考えているのというのは、今まで例えば、深山会という山登りなんですけど、ある程度毎年歩みという事で、みなさんにこれ一年間のやつということで毎年配布するわけですよ。ありがとうございますと、みんなねこんな所いきました、あんな所いきましたということでいい記念になっているわけです。それから絵の方も、これ毎年なんですけども、例えばパステルのどこのこの展覧会でやりましたと、これは毎年毎年蓄積されていく。たとえば今度あの生涯学習センターでフィステバルがあるんですけど三日間やります。その時もこれを拡大したやつを貼りつけたりしております。

で、今そのポートフォリオというのかな、ここで気がついたのは、これは単にプリントだけ、これをなんとかして一つの記録ということで、これをそのブッシュコーンあたりで写真、これからなんとか時々動画あたりをですね。これからのやつは撮りながら一つの記録として。それで、パソコン持ってきてですね、こういうあれで見ればパソコンにつながるよ、とかね。ない人にとっては持ってきてみせてあげる。そういう形で続けていけばね、よい記録となるし、単なるこういうあれだけじゃなくて、発展できるんじゃないかと気がしているわけです。

E216 地元から発信できる支援策

(出演) 高中陽一さん(茨城県ひたちなか市)

(出演=声) 野中寿夫さん(茨城県千代田町)

(出演=声) 山口文夫さん(茨城県石岡市)

高中 我々だけでこういうあれをやってもですね、とにかく発信元がやっぱりしっかりしたところじゃないと困る訳ですね。実は、先日前川先生にお話ししたように、水戸の生涯学習センターのですね、というのは、いろんな県の職員それから学校関係あらゆる公民館これを全部統括しているような場所なんですけどね。たまたま、先日4月からですね茨城の生涯学習というホームページの中にね。すべて教育をしまして、県関係のすべての人学校関係公民館、であらゆる講座、自分の所いつこういうことやるよというあらゆるデータをですね。全部その中に入力するという教育をだいぶ長い間かけて一通り終わったんですよ。

私がそこでできがしたのは、単なる講座いついかにいう連絡ぐらいのあれなんです。そうすると公民

館関係者あたりがブッシュコーンをマスターしていただいてね、自分の地元のこういうことをやったよと。写真とか動画をね、その場でホームページのアドレスを入れるだけでね。「ああこういうのを実際やっているんだ」と。今のは本当に色気がないんですよ。悪いけど単なる字列ですから。そこで、ブッシュコーンの今いろいろ講習会やっていますけれども、県の関係者をですね定期的にちゃんとして、24人ぐらいでできますからそのへんを教育して、ぜひやっぱりそこまでやらないとね。本当の意味でね。ブッシュコーンがどうのこうのじゃないんですが、今の時点ではブッシュコーンを学んでいただいて、公民館の情報を地元の情報を、そのせっき茨城の生涯学習というすべての情報を網羅する。やっとね、形ができたんですから、継続して広めていただければ、かなりそっから本当に特に生涯学習なんて言うのは、公民館というのは本当に地元に着した形でね、公民館の活動いかんによってね。かなり末広がりといえますかね、拡大していくんじゃないかと。ぜひこれをなんとか進めていきたいなと。

野中 自治体で何をやったんだと、なんにも成果でてないというんでね、やった担当者もやっぱりそこで。喜びを感じてくれないと、うまく進まないでしょ、やっぱり。それがないと何のためにこれをやったんかという話になっちゃいますよね。みんな見えてないんだと思うんですね、たくさんデータあるけど見えない。

高中 とにかく茨城県のすべてのいろんなあの行事とかなんかのあれというのは、このまえ茨城の生涯学習のできたあのあれしかないと思うんですよ今の所ね、あれを管理するそれぞれの市町村の担当者が、これをマスターしていただいて、それを載せてやる事が一番大事だ、ほとんどそれ以外ないなあ。

山口 やっぱりあれは神門さんたち作った側だけでなくね。僕らも育てていくというような気持ちで協力してきた方がいいですね。それには、あれ自分があそこに登録できるんですね、そうするといろんな連絡来たりするからまたこちらからアクションできるし、色気が確かにないからそれをこう育てていきたいですね。

高中 それはね、ここに書いてあるポスト IT なんていう講習なんですね。

=====

< 県の生涯学習企画担当は語る >

=====

E217 茨城の生涯学習情報提供

(出演) 神門博樹さん(茨城県水戸生涯学習センター企画課主事)

(聞き手) 前川道博(東北芸術工科大学専任講師)

(聞き手) 葛貫壮四郎さん(茨城県ひたちなか市)

前川 生涯学習の情報提供システム。これは4月から導入、その辺の状況はどういうふうになっていますか。

神門 そうですね、まだあの、開きまして3ヶ月という事で、コンテンツが正直な話充実していませんで、そのコンテンツの入力について各施設、各市町村にお願いしているところです。

E218b 行政主導から市民主体へ

(出演) 神門博樹さん(茨城県水戸生涯学習センター企画課主事)

(聞き手) 葛貫壮四郎さん(茨城県ひたちなか市)

葛貫 各センターともですね、自分たちがやってる事がこうオープンにできてみんなに蓄積があるとその気になるんですよ。何かやりなさいとって義務感でやると、なかなかそういや面倒くさいからやめちゃおうとかなっちゃうんですけど。自分の活動がこう、そこで、それがまた活動がですね。市民とか、関係者に終始徹底できる。そのためにはもうホームページがオープンになってですね。いろんな表現力がある....。

E218 市民と協働で企画運営

(出演) 神門博樹さん(茨城県水戸生涯学習センター企画課主事)

(聞き手) 前川道博(東北芸術工科大学専任講師)

前川 県民の方の力、NPO とかそういった力をうまく活かして生涯学習を支援していくと、新しいやり方に踏み出していくと....。その辺の可能性というか、なにか今お考えになる事は何かありますか？

神門 そうですね、まず情報ボランティアという組織がありまして、まあかなりの技術を持った方いらっしゃいますので、その方々にお声掛けしてなんとかやっていきたいなと思いました。今お話し聞きまして。

前川 企画とか運営とかもっとまた中核にも関わっていただくと、もっと大きな力になって頂けそうな気がしますよね。その辺はいかがでしょうか？

神門 そうですね、言われた通りで、これまではこちらがまた主導でやってきたものですから、逆に知識技術持ってる方が沢山いらっしゃいますので、その方々が中核に入っていてやっていきたいと思えます。

E219 生き甲斐づくりの支援

(出演) 神門博樹さん(茨城県水戸生涯学習センター企画課主事)

(聞き手) 前川道博(東北芸術工科大学専任講師)

(聞き手) 葛貫壮四郎さん(茨城県ひたちなか市)

前川 生涯学習という言葉を当たり前に使っている訳ですが生き甲斐作りという風に名前変えたらどうですかと逆に提案されたんですがその辺に関してどう思われますか？

神門 私の個人的な意見ですが、そっちの方がいいかなと思います。

前川 その自分のテーマを持って興味を持って一生涯懸けてそこに蓄積していくと、そういう学び方についてはどう思われますか？

神門 なかなかそういったツールが今まで無かったので、私自身もやってみたいなと思いました。

前川 そうすると長続き、何でも放り込める、趣味でも何でも一緒くたです、そういう学び方です。

神門 いやぁ、私、人生のテーマが無いのであの、、

葛貫 これから作って行くんですよ。

前川 そうです..。

E220 協働学習企画を学ぶ機会

(出演) 神門博樹さん(茨城県水戸生涯学習センター企画課主事)

(聞き手) 前川道博(東北芸術工科大学専任講師)

前川 こういう学び方、学習の場の提供というのがなかなか分からないと思うので、市町村とかの社会教育担当されている方の中で学んでいただくというのが一つ要るとは思っているんですよね。その一方で、やっぱりその一般の方にも広くこう学習する機会があるといいので、だからその pushcorn としても道具になるような気がするんですよね。これワークショップでどっかて開くという形があるといいのかなもしれないなあと思いますね。

神門 今まで無かった試みなので、期待できると思います。

E221 地域からの発信を豊かに

(出演) 石沢治雄さん(山形県生涯学習センター学習振興課長)

(聞き手) 前川道博(東北芸術工科大学専任講師)

石沢 県民の方々が自主的にやる生涯学習活動。これに対していかに我々が支援していけるのか。どんなふうな形で連携していけるのかってところを探っていく。そこのところが大きな課題になってるわけですね。

前川 市町村から担当の方が義務感でなく、もっと学習情報の提供に関しても、もっと生き生きできると...。

石沢 まあ、自分のところのPRなどもかねてね。

前川 そうですね。

石沢 たとえばお祭り情報という、ただ単にいつどこそこで、何月何日こういうのやりますよっていう文書だけじゃなくって、映像だとか、本当に楽しんでいる皆の表情だとか、そんなのも入れながら、PRも兼ねながらそういう情報提供をすとなんてなると結構力も入るかもわからないですね。

県で作りました生涯学習振興計画の中でも、県民の力でそういったものを作り上げていく。そして県民自らが他のの方々に対してね、学習機会を提供していくんだってことを言うておりますから。そういうふうなことで講座っていいですか。そういうふうなものの中に県民に直接参画していただく。参加をしていただくっていう点からしますとね。そういう方法とはより望ましいのかな。(略)そういう意味で気軽にこちらからの求めに応じているんな情報。あるいは自分の企画とか。そういったものを出していただけるような、そんなふうなことが、ネットの中でやりとりできるようであれば、もっともっと広く県民の参画ってというのが実現されてくるような気がしますけどもね。

現在の形としては一方的にこちらがこういうような体裁でという、ある程度定形化した、そういう求め方しかしていないんで、それに対しては義務的に提供するという形になってますんで。むしろそれが自ら、自分のところで情報発信しているような、そういうアイデアを凝らした、そういう情報が県を通じて全県に提供できるということになれば、非常にいい情報提供になるんだろうというふうに思いますね。

=====
<留意すべきいくつかの点>
=====

L260 権利の尊重

e ポートフォリオ、デジタルアーカイブ。こういったものをネットに公開するということができるようになってきました。その一方で気をつけないといけない点、留意しないといけない点があります。それは権利というものを尊重するという考え方ですね。これは自分が撮ったものであれば、自分の著作物になります。その限りにおいては公開することはよいのですが、他のサイト、他の方が撮ったもの。これを勝手に載せることはいけないことなのです。ですからそこはきちんと了解を得た上で載せる。ただそういったことをするとなかなか大変ですし、これは自分で基本的には撮ったものを載せていくということが一番、学習を、自らやった形のものを出していくということからいっても望ましいですね。

とは言いつつも他の人のものを扱うということも場合によっては出てくるかと思えます。地域のデジタルアーカイブを作るといった時に、他の人の作品を扱ったりすることがあります。そういう場合には、それに対しては十分に配慮しないとイケません。その権利についても整理しておかないとイケないことになってきたりします。

L261 肖像権という問題

それから自分で撮ったものであっても、例えばそこに人の姿が写っていたとします。それを勝手に載せると、知らない間に誰かさんの顔が出ているということになります。こういうものは肖像権と言いますけれども、肖像権を侵害するということになりかねませんので、こういったことに対しても配慮があるということなんですね。

特にこれからは、誰もが情報発信できる。それは大変便利になったんですけども、その一方で、ややもすると人の権利を侵害しかねない。著作権を侵害しかねない。肖像権を侵害しかねない。こういうことがありますので、初めての方。特にその意識がなかったりするので、ある意味とても怖い面があるんですね。そこは指導される方は是非ご注意ください、ご指導いただきたいと考えているんです。

L262 取材では事前の了解が大切

その具体的な方法としては、あらかじめ「こういうものを公開しますので、よろしいでしょうか?」。例えば取材先に行った時にあらかじめそういった紙を用意しておいて、お渡しして説明をするとかですね。そういった方法も必要になってくるのではないかと思います。それから学習会で多くの人に参加したりします。お互いに撮りあったりすると、お互いの顔などが出てしまいます。そのときにいちいち「公開していいですか?」と確認するのは非常に不合理なんですね。その場合にはお互いの了解事項として、「この場で皆でやる様子は公開してもいいですね」ということはあらかじめ了解しておく。そうするとお互いに気兼ねなく撮って公開することができるようになるわけですね。そういったこともコミュニティの中で解決していかれるといいんではないかと思います。

そういう方法がいくつかあると思うんですね。これからの時代、情報を共有する。お互いに情報を出し合うということは、お互いの権利も侵害しやすくなるということでもありますので、特に相手の方の権利というものを気遣ってですね。気持ちのよい形でお互いに情報を共有できるという社会に進んでいきたいな、と考えていますんで、是非その辺ですね。お考えいただければと思います。

L263 自律できるeコミュニティ

「e コミュニティ」と一言で言うんですが、これは自律できるコミュニティというのを理想としては考えています。それはどういうことかということ、自分たちの中で意思決定ができるということですね。そして自分たちの中でいろいろな問題が解決できるということなんです。お金がかかればお金がかかったように、それも処理ができるということなんです。そして技術的な面もありますが、その辺も自分たちで支えられるということなんです。一つの自治組織といたら大げさなんですけれども、「自治モデル」というものでお考えいただくと、少しわかりやすいかもしれません。

自分たちの活動ですから、自分たちで責任を持つ。自分たちで支えられるように、自律したものにしていくなきゃいけないということなんですね。これが未長く続く、一つの核になっていくのではないかと考えています。

そのメンバー構成など考えますと、まずリーダーですね。活動全体をコーディネーションする役割の方

がいます。それからサーバを構築したり運用したりするシステムの運用管理者というものがいます。技術面を担当したり、計画から運用までシステム的な面をサポートしていくという役割の人ですね。

それからパソコンの使い方であるとか、わからないところを教えてあげる。これを IT サポーターという言い方で言いたいと思います。IT サポーター。決して技術的に難しいことでなくていいんですけども、使い方とかを手ほどきしてアドバイスしてあげられるような人ですね。こういうのがグループの中に程よく混じっているということが皆の大きな支えになります。

そして学習する人ですね。サイトを制作したり、学習の主役になる人です。こういう人たちの裾野が大きくなって行って、全体がお互いにですね。学びあう。教えあう。こういう関係に育っていくと。こういうものが e コミュニティとうもの一つの描けるイメージなんです。

L264 IT が学習の面白さを引き出す

生涯学習で IT を活用するという一つの提案でもあるわけなんですけど、とにかく IT というものは非常に難しいために、パソコンをまず学ばないといけない。IT 講習のような形がどうしても避けられないというようなことで、なかなかその生涯学習への展開が進まないで来ました。ですけれども、これからはもっとやさしい道具立てでそれぞれの主体的な学習。面白さを引き出すような支援をしていくという時代に進みつつあります。私たちが取り組んできたものは、プッシュコーンという道具を使って、それぞれのポートフォリオを作ってもらおう。またそれを通じて協働学習を考えていただくということだったんですが、実際にこれができるということが、徐々に証明されてきました。そしてその裾野が広がってきつつあります。この機会にもっと、より多くの方にですね。こういった方法。プッシュコーンが決して唯一の方法ではないんですけども、やさしい方法で、本当の、本来の学習の面白さを引き出すことに役立てていただくという文化がもっと広がっていくといいというふうに考えています。

L265 地域に開かれた生涯学習を

いろいろな課題が生涯学習についてはあります。一つは中高年齢層の方が非常に多くなってしまいう傾向ですね。本当はもっと若い人たちと交流できるといいんですけども、なかなか社会の中に接触する場面がないということがあるんですね。

これは一つは大学がもっと地域に開かれていく。こういう形でそこの中にも協働学習というものが生まれていくのではないかというふうに思います。

それから中高年齢層の方の中でお互いに学びあうという形で、特に IT というものは苦手な方が多いようなんですけれども、決してそんなことはないということは、こちらにご参加いただいている方も証明されている。ですからそこはやはり自分たちの中の「面白さ」を引き出すことではないのかなと思います。

で、生涯学習施設。先ほどもサロンが欲しいとか、なかなか住民の人にその場を開放してくれないとかいった指摘がありました。そういった問題を解決していただいて、e コミュニティが地域に根付くようにですね。是非皆さんにもご支援いただいて、これからの地域活動のデザインの中に活かしていただきたいと思います。

(第 2 回おわり)